

「手紙って温かいですね。相手のことを思って言葉を伝える、その気持ちが大切です」。「心を届ける手紙のセミナー」を主宰する村山順子さんが伝えるのは、心と心をつなぐメッセージだ。きっかけはご主人からの一通の手紙。亡くなる1カ月前、村山さんの誕生日祝いにと、レポーター用紙に綴られた言葉が、ずっと村山さんを支え続けた。「主人の書いた文字を見るたびに、そばで励ましてくれている気がします」。行間に込められた思いは、直筆の手紙でしか感じられないものだ。「季語やあいさつなど形式にこだわらなくていいんです。感謝の言葉やいたわりの気持ちをもまま伝えれば、家族や周囲の人とのコミュニケーションはもっと良くなります」。まずは書いてみることから。気に入った便せんと封筒を用意して、相手を想う素直な気持ちを言葉で綴ってみました。

素直な想いを伝えて、心をつなぐ手紙。



「『会えてうれしい』、『お話できて良かった』などシンプルに普通の言葉で書くのがコツ」と村山さん。書いて送った後は、返信などは期待しないで。

— お気に入りの手紙用アイテムで筆まめに。 —



1、いつでも、手紙セットを持ち歩く。

村山さんは小さな袋にアドレス帳や切手、メッセージカード、一筆せん、封筒、文香などを入れてバッグに携帯し、時間がある時さっと書けるようにしている。まず封筒に相手の名前や住所を書いておくことも、筆まめになるコツ。



2、筆記用具は手になじんだものを。

書きやすい筆記用具を探して書いてみる。自分に合ったものが見つかると、筆を走らせるのも楽しい。村山さんのお気に入りにはための万年筆、すべりのよいボールペンなど。インクはブルーブラックと決めているそう。



3、相手の好みや季節にあった便せんを選ぶ。

便せんや封筒は縦書き、横書きを用意。カジュアルなデザインが施されたものや和紙風の便せんなど、送る相手に合わせて使い分けをする。花や香り付きのメッセージカードなど相手の喜ぶ姿を想像できるのも手紙ならではの。



亡くなったご主人との思いが綴られた村山さんの著書『60歳の約束〜見えますか、聴こえますか、これでいいですか』創英社/三省堂書店

教えて！ 名人 5

人から人へ広がる思い。



絵はがきを集めて親子3代の交流に。村山さんが孫に宛てた絵はがきをストック。さまざまな日々の思いが凝縮されて1冊の絵本のよう。



心が繋がる言葉の贈り物。経営していた会社のスタッフから記念の直筆メッセージブック。村山さんの思いが形になって伝わっている。

心を届ける手紙のセミナー主宰

村山順子さん | むらやま・じゅんこ

鹿児島県沖永良部生まれ、小学校教諭から専業主婦を経て友人と清掃会社創業。1999年家事代行サービスの会社(有)プロシード(ひまわりサービス)を創業。現在は会長を勤めながら、講演会やセミナーなど幅広く活躍。

【セミナーの予定】

第27回「心を届ける手紙のセミナー」
日時/5月16日(日) 午前10時～
場所/神戸市労働会館306号室(三宮)
定員/12名(先着順)
参加無料 筆記用具持参
申し込み先/☎090-9866-2426(村山)
<http://www.kokoronotegami.com/>

手紙には電話やメールにはない特別なメッセージがある。その時の気分や思いが文字や行間に込められる。